SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

第94回宮崎大学イブニングセミナー

SFTSってどんな病気？

～医師と獣医師が語る“健康”のつながり～

日　　時：2026年3月5日（木）　17:30-19:00

場　　所：宮崎大学錦本町ひなたキャンパス講堂１・２

※会場には駐車場がございません。近隣の駐車場をご利用ください。

（Microsoft Teamsで同時配信します）

定　　員：制限は設けておりません。

申込方法：事前登録は不要です。

※Microsoft Teamsで視聴される方は登録が必要となります。

（QRコードをクリックするか、コードを読み取ってお申込みください。）

※上記でのお申込みが困難な場合には、メールにて「学内・外者の別，学内者の場合は教職員・学生の別，所属，氏名」をお知らせ下さい。

宮崎大学研究推進課総務係　E-Mail：ken-somu@of.miyazaki-u.ac.jp

次　第：

《司会》丸山　治彦（医学獣医学総合研究科　研究科長）

開会挨拶

17:30-17:35　鮫島　浩（学長）

発　　表

17:35-17:55　SFTSってどんな病気？

宮崎　泰可（医学部内科学講座　教授）

17:55-18:20　宮崎県におけるSFTSと当講座の取り組み

川口　剛（医学部内科学講座　助教）

18:20-18:45　動物のSFTS、動物からのSFTS

岡林　環樹（産業動物防疫リサーチセンター　教授）

18:45-18:55　総合討論（Q&A）

閉会挨拶

18:55-19:00　片岡　寛章（理事・副学長）

J-PEAKS

地域中核・特色ある
研究大学強化促進事業
（J-PEAKS）

SFTSってどんな病気？

～医師と獣医師が語る“健康”のつながり～

SFTS（重症熱性血小板減少症候群）は、人と動物の両方に関わる新しい感染症です。本講演では、医師と獣医師がそれぞれの立場からSFTSの特徴や予防、そして人・動物・地球の健康を守る“つながり”についてわかりやすくお話しします

１．SFTSってどんな病気？

宮崎 泰可（医学部 内科学講座 呼吸器・膠原病・感染症・脳神経内科学分野　教授）

SFTSとは、Severe Fever with Thrombocytopenia Syndromeの略語で、日本語では「重症熱性血小板減少症候群」と呼ばれます。ダニを介して感染するウイルス感染症で、病名の通り、発熱と血小板減少がみられます。重症例は、意識障害や出血症状を認め、ときに致死的な経過をとります。治療には抗ウイルス薬であるファビピラビル（商品名：アビガン）の経口投与を行いますが、現時点でワクチンはありません。本セミナーでは、SFTSとはどのような病気か、どのような人がかかりやすいのか、現在わかっている予防策や地域としての備えについて考えてみたいと思います。

２．宮崎県におけるSFTSと当講座の取り組み

川口　剛（医学部 内科学講座 呼吸器・膠原病・感染症・脳神経内科学分野　助教）

宮崎県は国内最多のSFTS報告地域であり、2025年7月末までに119例（全国1,185例）が届出されています。当講座は県内の基幹病院と連携し、これまでに84症例のデータを収集・解析してきました。本セミナーでは、これらの研究から得られた知見をもとに、SFTSやその重症化の特徴についてわかりやすく解説します。あわせて、急性期に合併しうる侵襲性肺真菌症（カビによる肺炎）や、急性期血清を用いたサイトカイン解析など、最新の研究成果も紹介します。

３．動物のSFTS、動物からのSFTS

岡林 環樹（産業動物防疫リサーチセンター / 農学部 獣医学科　教授）

SFTSは人だけでなくネコやイヌなどの伴侶動物をはじめとするさまざまな動物にも感染する人獣共通感染症です。特にネコでは重症化しやすく、高い致死率が報告されています。また感染動物の血液や体液との直接的な接触によって、人がSFTSを発症する事例も国内外で報告されており、「動物からのSFTS」も問題となっています。本セミナーでは、動物におけるSFTSの臨床症状や診断、発生状況を概説するとともに、動物から人への感染事例の実態ついて解説します。さらに、獣医療現場や一般家庭において実践可能な感染予防対策についても紹介し、人と動物が安全に共存するための“ワンヘルス”の視点からSFTS対策の重要性を考えます。